

昭和31年1月24日第三種郵便物認可 令和6年3月5日発行（隔月1回5日発行）「燈光」第68巻・第2号

# 燈 光



3

# 航路標識協力団体の指定式を行いました

第四管区海上保安本部交通部企画課



第四管区海上保安本部では令和6年2月14日に愛知県蒲郡市西浦町に位置する橋田鼻灯台の航路標識協力団体として、株式会社たつき荘を指定し、2月19日に指定式を実施いたしました。

## 【航路標識協力団体とは】

航路標識法に基づき、管区海上保安本部長が指定した団体であり、航路標識の管理等の活動を自発的に行う民間団体等をいいます。指定されることにより当局からの情報提供や助言を受けることができるようになります。今まで以上に円滑な活動ができるようになります。

## 【橋田鼻灯台とホテルたつき】

橋田鼻灯台は、三河湾に接する西浦半島に位置し、昭和46年3月に設置されました。地上からの高さは14メートルでLED灯器を使用した灯台では愛知県内で最も明るい灯台であり、踊り場からは三河湾を一望で



<橋田鼻灯台とホテルたつき>

きます。

同灯台は株式会社たつき荘が経営する、「ホテルたつき」に隣接していることから、以前からホテル従業員によって、灯台周

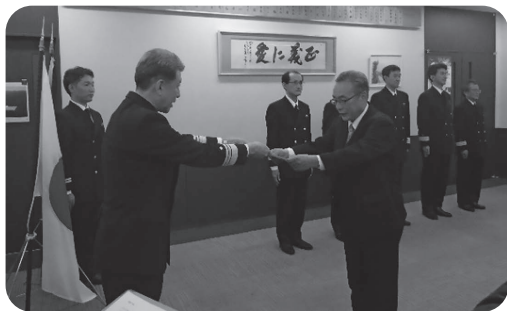
辺の草刈り等の環境美化活動及び台風通過後の灯火確認を行うといったボランティア活動を行っていました。

今後は従来の活動に加えて、航路標識の知識の普及及び啓発に関する活動として灯台の一般公開、宿泊者向けのプラン

や関連グッズの販売を実施する予定となっております。

### 【指定式】

指定式では、第四管区海上保安本部長から指定証を交付し、名古屋海上保安部長から灯台の鍵の引き渡しを行いました。その後の懇談会においても、灯台の役割や観光資源について活発な意見交換が行われました。第四管区海上保安本部では初となる株式会社社の指定ということもあり、テレビ及び新聞の取材も入り、夕方の情報番組で約5分もの特集が組まれ、大いに盛



＜指定証の交付＞



＜鍵の引き渡し＞



＜集合写真＞

り上がりを見せました。  
【更なる指定に向けて】

船舶の運航において様々なものが高度化されているなかでも、航路標識は沿岸水域を航行する船舶の指標となる重要な施設です。また近年では、灯台の歴史的文化的価値が注目されており、航路標識協力団体の活動により、灯台等が町の観光資源として地域を盛り上げる存在となることも期待されています。

今回の指定により、第四管区海上保安本部管轄内では5団体が4箇所、所々の灯台において活動することとなり、今後は地域の

方々と連携を深め、更なる航路標識協力団体の指定に向けて活動してまいります。



航路標識協力団体一覧表

番号	航路標識協力団体の名称	航路標識協力団体の所在地	航路標識の名称	航路標識の所在地	担当する管区本部及びその事務所	
					管区本部	事務所
1	一般社団法人 石狩観光協会	北海道石狩市	石狩灯台	北海道石狩市	第一管区 海上保安 本部	小樽海上保安部
2	公益財団法人 知床財団	北海道斜里郡斜里町	宇登呂灯台	北海道斜里郡斜里町		紋別海上保安部
3	恵山岬灯台活用協議会	北海道函館市	恵山岬灯台	北海道函館市		函館海上保安部
4	初山別村	北海道苫前郡初山別村	金比羅岬灯台	北海道苫前郡初山別村		留萌海上保安部
5	一般社団法人 北海道江差観光みらい機構	北海道檜山郡江差町	鴟島灯台	北海道檜山郡江差町		函館海上保安部
6	実なる杜推進協議会	北海道積丹郡積丹町	神威岬灯台	北海道積丹郡積丹町		小樽海上保安部
7	一般社団法人 七ヶ浜町観光協会	宮城県宮城郡七ヶ浜町	花淵灯台	宮城県宮城郡七ヶ浜町	第二管区 海上保安 本部	宮城海上保安部
8	公益社団法人 燈光会	東京都港区	尻屋埼灯台	青森県下北郡東通村		八戸海上保安部
9	公益社団法人 燈光会	東京都港区	入道埼灯台	秋田県男鹿市		秋田海上保安部
10	公益社団法人 燈光会	東京都港区	塩屋埼灯台	福島県いわき市		福島海上保安部
11	八戸市	青森県八戸市	鯨角灯台	青森県八戸市		八戸海上保安部
12	特定非営利活動法人 庄内海浜美化ボランティア	山形県酒田市	酒田灯台	山形県酒田市		酒田海上保安部
13	鼠ヶ関自治会	山形県鶴岡市	鼠ヶ関灯台	山形県鶴岡市		酒田海上保安部
14	一般社団法人 浄土日和	岩手県宮古市	鮎ヶ埼灯台	岩手県宮古市		釜石海上保安部
15	普代村	岩手県下閉伊郡普代村	陸中黒埼灯台	岩手県下閉伊郡普代村		釜石海上保安部
16	大船渡市	岩手県大船渡市	碁石埼灯台	岩手県大船渡市		釜石海上保安部
17	男鹿市	秋田県男鹿市	入道埼灯台	秋田県男鹿市		秋田海上保安部
18	鯨埼灯台サポーター	神奈川県川崎市	鯨埼灯台	神奈川県三浦市	第三管区 海上保安 本部	横須賀海上保安部
19	公益社団法人 燈光会	東京都港区	犬吠埼灯台	千葉県銚子市		銚子海上保安部
20	公益社団法人 燈光会	東京都港区	野島埼灯台	千葉県南房総市		千葉海上保安部
21	公益社団法人 燈光会	東京都港区	観音埼灯台	神奈川県横須賀市		横須賀海上保安部
22	公益社団法人 燈光会	東京都港区	初島灯台	静岡県熱海市		下田海上保安部
23	公益社団法人 燈光会	東京都港区	御前埼灯台	静岡県御前崎市		清水海上保安部
24	勝浦市	千葉県勝浦市	勝浦灯台	千葉県勝浦市		銚子海上保安部
25	NPO太東埼燈台クラブ	千葉県いすみ市	太東埼灯台	千葉県いすみ市		銚子海上保安部
26	いすみ市	千葉県いすみ市	太東埼灯台	千葉県いすみ市		銚子海上保安部
27	一般社団法人 三宅島観光協会	東京都三宅島三宅村	伊豆岬灯台	東京都三宅村		下田海上保安部
28	一般社団法人 三宅島観光協会	東京都三宅島三宅村	サタドー岬灯台	東京都三宅村	下田海上保安部	
29	南伊豆町	静岡県賀茂郡南伊豆町	石廊埼灯台	静岡県賀茂郡南伊豆町	下田海上保安部	
30	一般社団法人 美浜まちラボ	愛知県知多郡美浜町	野間埼灯台	愛知県知多郡美浜町	第四管区 海上保安 本部	名古屋海上保安部
31	志摩市灯台活用推進協議会	三重県志摩市	大王埼灯台	三重県志摩市		鳥羽海上保安部
32	志摩市灯台活用推進協議会	三重県志摩市	安乗埼灯台	三重県志摩市		鳥羽海上保安部
33	公益社団法人 燈光会	東京都港区	大王埼灯台	三重県志摩市		鳥羽海上保安部
34	公益社団法人 燈光会	東京都港区	安乗埼灯台	三重県志摩市		鳥羽海上保安部
35	一般社団法人 ジャマテラス	三重県志摩市	大王埼灯台	三重県志摩市		鳥羽海上保安部
36	株式会社 たつき荘	愛知県蒲郡市	橋田鼻灯台	愛知県蒲郡市		名古屋海上保安部



37	和歌山県立 串本古座高等学校	和歌山県東牟婁郡串本町	樫野 埼 灯 台	和歌山県東牟婁郡串本町	第五管区 海上保安 本 部	田辺海上保安部
38	公益社団法人 燈光会	東京都港区	潮 岬 灯 台	和歌山県東牟婁郡串本町	第五管区 海上保安 本 部	田辺海上保安部
39	特定非営利活動法人 日ノ岬・アメリカ村	和歌山県日高郡美浜町	紀伊日ノ御埼灯台	和歌山県日高郡日高町		田辺海上保安部
40	高 知 市	高知県高知市	高 知 灯 台	高知県高知市		高知海上保安部
41	一般社団法人 赤穂観光協会	兵庫県赤穂市	赤穂御埼灯台	兵庫県赤穂市		姫路海上保安部
42	一般社団法人 室戸市観光協会	高知県室戸市	室 戸 岬 灯 台	高知県室戸市		高知海上保安部
43	大崎上島町観光協会	広島県豊田郡大崎上島町	中ノ鼻灯台	広島県豊田郡大崎上島町	第六管区 海上保安 本 部	呉海上保安部
44	公益財団法人 高松観光コンベンション・ビューロー	香川県高松市	高松港 玉 藻 防波堤灯台	香川県高松市		高松海上保安部
45	伊 方 町	愛媛県西予郡伊方町	佐田岬灯台	愛媛県西予郡伊方町		松山海上保安部
46	特定非営利活動法人 男木島観光協会	香川県高松市	男 木 島 灯 台	香川県高松市		高松海上保安部
47	一般社団法人 坂出市観光協会	香川県坂出市	鍋 島 灯 台	香川県坂出市		高松海上保安部
48	公益社団法人 燈光会	東京都港区	角 島 灯 台	山口県下関市	第七管区 海上保安 本 部	門司海上保安部
49	大分市関崎海星館指定管理者 大分エージェンシー株式会社	大分県大分市	関 埼 灯 台	大分県大分市		大分海上保安部
50	佐 伯 市	大分県佐伯市	水ノ子島灯台	大分県佐伯市		大分海上保安部
51	佐 伯 市	大分県佐伯市	鶴御埼灯台	大分県佐伯市		大分海上保安部
52	南 島 原 市	長崎県南島原市	口之津灯台	長崎県南島原市		長崎海上保安部
53	株式会社 K P G H O T E L & R E S O R T	長崎県長崎市	伊 王 島 灯 台	長崎県長崎市	第七管区 海上保安 本 部	長崎海上保安部
54	長 崎 市	長崎県長崎市	樺 島 灯 台	長崎県長崎市		長崎海上保安部
55	株式会社 テレビ長崎	長崎県長崎市	樺 島 灯 台	長崎県長崎市		長崎海上保安部
56	五 島 市	長崎県五島市	大瀬埼灯台	長崎県五島市		長崎海上保安部
57	日御碕を美しくする会	島根県出雲市	出雲日御碕灯台	島根県出雲市	第八管区 海上保安 本 部	境海上保安部
58	公益社団法人 燈光会	東京都港区	出雲日御碕灯台	島根県出雲市		境海上保安部
59	黒 部 市	富山県黒部市	生地鼻灯台	富山県黒部市	第九管区 海上保安 本 部	伏木海上保安部
60	漁村文化ミュージアム IKUJI協議会	富山県黒部市	生地鼻灯台	富山県黒部市		伏木海上保安部
61	狼煙観光協会	石川県珠洲市	祿剛埼灯台	石川県珠洲市		七尾海上保安部
62	角田浜観光協会	新潟県新潟市	角田岬灯台	新潟県新潟市		新潟海上保安部
63	珠 洲 市	石川県珠洲市	祿剛埼灯台	石川県珠洲市	第九管区 海上保安 本 部	七尾海上保安部
64	大島プロジェクト会議	宮崎県日南市	鞍 埼 灯 台	宮崎県日南市		宮崎海上保安部
65	公益社団法人 燈光会	東京都港区	都 井 岬 灯 台	宮崎県串間市	第十管区 海上保安 本 部	宮崎海上保安部
66	N P O 法 人 坊 津 や ま び こ 会	鹿児島県南さつま市	坊ノ岬灯台	鹿児島県南さつま市		串木野海上保安部
67	一般社団法人 日向市観光協会	宮崎県日向市	細 島 灯 台	宮崎県日向市		宮崎海上保安部
68	公益社団法人 燈光会	東京都港区	残波岬灯台	沖縄県中頭郡読谷村	第十一管 区海上保 安 本 部	那覇海上保安部
69	公益社団法人 燈光会	東京都港区	平安名埼灯台	沖縄県宮古島市		宮古島海上保安部
70	北大東村	沖縄県島尻郡北大東村	北大東島灯台	沖縄県島尻郡北大東村		中城海上保安部

# 灯 台 名

( 全 て の 指 定 )

( 参 考 )

令和6年2月14日現在

番号	灯台名	番号	灯台名	番号	灯台名	番号	灯台名
①	うとろ 宇登呂灯台	②	こんびらみさき 金比羅岬灯台	③	いしかり 石狩灯台	④	かむいみさき 神威岬灯台
⑤	えさんみさき 恵山岬灯台	⑥	かもめしま 鷗島灯台	⑦	しりやさき 尻屋埼灯台	⑧	さめかど 鮫角灯台
⑨	りくちゅうくろさき 陸中黒埼灯台	⑩	とどがさき 鮎ヶ埼灯台	⑪	ごいしさき 碁石埼灯台	⑫	はなぶち 花淵灯台
⑬	にゅうどうさき 入道埼灯台	⑭	さかた 酒田灯台	⑮	ねずがせき 鼠ヶ関灯台	⑯	しおやさき 塩屋埼灯台
⑰	いぬほうさき 犬吠埼灯台	⑱	たいとうさき 太東埼灯台	⑲	かつうら 勝浦灯台	⑳	のじまさき 野島埼灯台
㉑	かんのんさき 観音埼灯台	㉒	つるぎさき 劔埼灯台	㉓	はつしま 初島灯台	㉔	いろうさき 石廊埼灯台
㉕	いずみさき 伊豆岬灯台	㉖	さたどーみさき サタドー岬灯台	㉗	おまえさき 御前埼灯台	㉘	はしだはな 橋田鼻灯台
㉙	のまさき 野間埼灯台	㉚	あおりさき 安乗埼灯台	㉛	だいおうさき 大王埼灯台	㉜	かしのさき 榎野埼灯台
㉝	しおのみさき 潮岬灯台	㉞	きいひのみさき 紀伊日ノ御埼灯台	㉟	あこうみさき 赤穂御埼灯台	㊱	むろとぎさき 室戸岬灯台
㊲	こうち 高知灯台	㊳	さだみさき 佐田岬灯台	㊴	おぎしま 男木島灯台	㊵	なべしま 鍋島灯台
㊶	たかまつこうたまも 高松港玉藻防波堤灯台	㊷	なかのはな 中ノ鼻灯台	㊸	つのしま 角島灯台	㊹	せきさき 関埼灯台
㊺	みずのこしま 水ノ子島灯台	㊻	つるみさき 鶴御埼灯台	㊼	くちのつ 口之津灯台	㊽	いおうしま 伊王島灯台
㊾	かばしま 樺島灯台	㊿	おおせさき 大瀬埼灯台	①	いずもひのみさき 出雲日御碕灯台	②	かくだみさき 角田岬灯台
③	いくちはな 生地鼻灯台	④	ろっこうさき 禄剛埼灯台	⑤	ほそしま 細島灯台	⑥	くらすき 鞍埼灯台
⑦	といみさき 都井岬灯台	⑧	ほうのみさき 坊ノ岬灯台	⑨	きただいとうしま 北大東島灯台	⑩	ざんばみさき 残波岬灯台
⑪	へんなさき 平安名埼灯台						

# 灯 台 位 置 图





# 「灯台ウィーク」塩屋埼灯台一般公開

今年もハロウィーン風です

「塩屋埼灯台誕生日記念」「燈の守り人」ボイスドラマ先行視聴会

地元自治体、有志団体並びに「燈の守り人」製作委員会様と連携しました

福島海上保安部・とよまの灯台倶楽部

皆さま、お世話になります。「燈光」令和5年11月号は読んでいただきましたでしょうか??福島県いわき市のシンボルとして地域に親しまれる「塩屋埼灯台」の今年度2回目の寄稿となります。どうぞ最後まで読み切ってくださいますようお願いいたします。お願いいたします。本当に本当に。

さて、夏休み企画「燈光」令和5年11月号2ページからの「かつおのほり掲揚」&「とよまの灯台星空観望会」を御覧下さい」を終え、一旦お休みモードに入った私たち「福島海上保安部」と「とよまの灯台倶楽部」は、毎月の定例会で「灯台ウィークでは、何をどんな感じにしていきたいと思いますか?」という話題になりました。

新型コロナウィルス感染症の位置づけが変更となつてから、初めての行楽シーズンを迎えて、この福島県

内においても様々なイベントが催されており、地元で様々な活動を行っている「とよまの灯台倶楽部」の皆様は、地元のイベントの手伝いはもちろんのこと、「自分たちも、ちょっとお出かけしたいな」というモードになっておりました。(正直なところ)。

今年の夏は暑く長かったということもあり、一時休息という意見を採用し「メリハリ」をつけることにいたしました。ここで大切なのは、「次は何時に何をするか」を必ず決めておくことでした。

そういうことから、灯台ウィークでは、塩屋埼灯台の擬人化キャラクターをPRすることに重きを置いて一般公開を行い、本命は12月15日の塩屋埼灯台の初点灯を記念とした行事により、1年をめることにしました。実施日は、関係者が集まれる日、塩屋埼灯台を訪れる人が多そうな日ということで、12月16日(土曜日)

にイベントを行うこととし、毎月の定例会も引き続き開催のうえ、実施内容をしっかり決めていこうということになりました。

さて、灯台ウィークでの「PR」というのは簡単ではありませんが、なかなか「どうやったら効果的なのか」ということが思いつかないものです。とは言っても、今までやってきていることに間違いはないので、関係者からのSNS発信や、とよまの灯台倶楽部」のチラシ作りといったところでサクッとお知らせし、周知を手早く省力化に努め終わらせました。それでも、観光会社、SNSを見た個人の方から問い合わせをいただき、今までの周知方法が定例になっているため情報が欲しい方たちからは、すぐに反応を頂き効果を感じるどころです。

今度は塩屋埼灯台の飾りつけです。一から飾りや何かを作っていくのは結構な

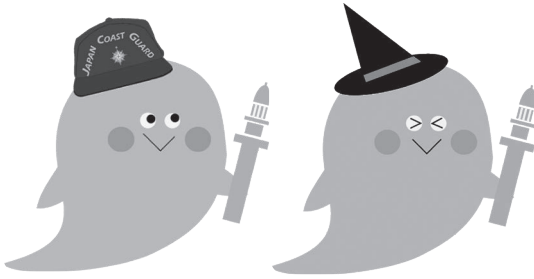


図1 職員製作のお化けキャラクター

労力があるものです。昨年、初めて10月に一般公開を開催し、時期に合わせてハロウィーン風の飾りを作り、これが非常に好評（主に主催者側）だったこともありまして、今年も同じ時期にすることで飾りつけテーマが同じとなるので、労力が減ります。ということ、10月29日（日曜日）に開催することにしました。

早速、飾りを紹介いたしますが、昨年度も塩屋埼灯台一般公開で登場した（お化けデザイン）の海上保安官。よくよく見れば、手に持っているのは、灯台だっ

て分かっていただけますか？

このキャラクターデザインは、当部のデザイン作家（職員）が作成したものです。昨年は、このキャラクターを使って、缶バッジ等を作り、灯台敷地内に「キードイズ」を貼り付け、答えられた方に記念に渡すことにしたところ、爆発的な人気となりまして、最初に作っていた缶バッジがあつと言う間になくなり、あわてて現地で増産増産：ノンビリするはずが思いもよらない作業が発生してしまいました：というものでした。このようなこともあり、日本全国、世界中どこでも（言い過ぎ？）ハロウィーンイベントは人気があるようです。灯台一般公開も、これにあやかりましょうぞ！！

さて、キャラクターというものはデザインだけでは印象に残りにくいものです。そこで、キャラクター設定をしようと考えました。その設定の中で、塩屋埼灯台の歴史に触れるようにして、思い付き、閃いた…のが、次のキャラクター設定です。

### 〈キャラクター紹介・職員の想像による設定です〉

○名前 オットウー (Ottowoo)

(種類:お化け族 灯台課程)

○誕生日 1899年12月15日

○ゴーストになった日 1938年11月5日

○手に灯台持った日 1940年3月30日

○紹介

オットウーは塩屋埼灯台の煉瓦として生を受け誕生したが、1938年11月に発生した福島県東方沖地震で灯台が倒壊してしまい、煉瓦も崩れしてしまったことによりゴーストになってしまいました。灯台が復旧するまでの間、仮の灯台のお手伝いをしてボンヤリ海を照らして支えていたが、1940年3月30日、晴れて二代目の塩屋埼灯台が完成し、オットウーも復活!!…と思いましたが、完成した二代目の塩屋埼灯台はコンクリート造り

であったため、煉瓦生まれのオットウーが入り込む隙が無く、復活は夢となりました。ちよつと寂しいなと思いましたが、あつげらかんとした性格のオットウーは、二代目塩屋埼灯台のモニュメントを作り、それを手に新しい塩屋埼灯台が何時までも地域を照らすシンボルでいるよう支えることにしました。最近ほ、海上保安庁の帽子をカブルのがお気に入り。

.....

どうでしょうか。途中、やや強引なところがありますが、記念日や歴史がスツと入ってくる方がいれば、このキャラクター設定は成功だと思うところです。このほかにも、蜘蛛のキャラクターを考えた作家(別の職員)も居ますが、今回の紹介はここまでとさせていただきます。来年のハロウィーンの時期に塩屋埼灯台でお会いしましょう。さて、迷走してしまいそうな今回の寄稿ですが、イベントの紹介をいたします。

### 〈10月29日 塩屋埼灯台一般公開〉

前述したように、灯台ウィーク期間中のイベントとしては少し大人しい感じになりますが、令和5年7月「燈の守り人プロジェクト」により、擬人化されたシ



ンボルキャラクターが贈呈され、そのキャラクターとプロジェクトに関するPRを行うことといたしました。12月の塩屋埼灯台誕生日記念に繋がればいいなという願いを込めてPRすることにしました。

ここで話しを「燈の守り人プロジェクト」からキャラクターが贈呈された際、等身大パネルもあり、塩屋埼灯台に置く案もあったようですが、灯台下の駐車場等がある売店（レストラン）にパネル等を置くこととなり、人が集まる場所において灯台に来てもらうためPRにはもってこいではありましたが、やはりキャラクターと灯台が一緒に無いのはもったいないということで、何とかならないかと考えていました。

そこで、各方面に助成等の協力をお願いし、追加で等身大パネルと幟を作ることとなり、新たな魅力発信のための小道具を揃えていくこととしました。出来上がったパネルを慎重に灯台まで持ち上がり、飾ってみたら、いい感じですよね！（写真1）

実は、調整等がギリギリとなったので一般公開までに合うかという心配がありました。製作会社等のご協力もあり、無事に展示することが出来ました。来場される方々からは当然、キャラクターのことについ

ても質問され、展示したパネルとともに、塩屋埼灯台の歴史に触れながら一つ一つ丁寧にお話しをさせていただきますので、よいPRになったものと思われま。す。（きつと☆）

PR用に準備した小道具は、等身大パネルのほかにもあります。（安くていいもの！）実は等身大パネルより、好評だったものが「幟」でした。キャラクターの顔、灯台の名称、デザイン画の背景に溶け込んだ灯台が全て良い雰囲気を出し、そして非常に目立つ、更



写真1 塩屋埼灯台展示室内 キャラクター等身大パネル展示

に「幟」は、いいスポットに飾って写真に映える!! (扱うのも簡単!!) これが非常に好評でしたので、次の12月16日のイベントに使用したいと思います。(写真2)

このほか一般公開では灯台クイズを行い、答えた方には記念として缶バッジを配布したり、地元有志団体「いわきオーロラグループ」のアマチュア無線による塩屋埼灯台の魅力発信を行ったり(写真3)、主催した私たちも楽しく過ごした1日となりました。ひょっとしたら、全国の何処かでアマチュア無線で繋がった方がいらっしやったかもしれません。また、機会があれば。。。

そう言えば、「燈光11月号」で反響(?)を頂いた、イベント中止率50%の、とよまの灯台倶楽部。代表が不在にも関わらず、途中、風が強くなり灯台の一般公開は3時間ほど中断させていただきました。オカシイ:皆で話していましたが、代表がいたら、もっと酷い風が吹いていたであろうと代表が不在ということをイイことに話していたところ、(写真3)の幟をお持ちの方(右端)が、片付けには来場されておりました。(やはり!!)



写真2 塩屋埼灯台とキャラクター幟・「海と灯台ウィーク」横断幕

さて、塩屋埼灯台一般公開から塩屋埼灯台誕生記念日に向けて1ヶ月と少しだけですが、盛り上げていきましょう!!ということで、無事に灯台ウィークのイベントを終了した次第です。

〈12月16日 塩屋埼灯台誕生記念日イベントの実施〉  
12月15日は塩屋埼灯台点灯日(初代)となります。「燈の守り人プロジェクト」では、キャラクタ



写真3 いわきオーロラグループとの記念撮影

ターが贈呈された後、ボイスドラマの公開があるという情報を得ておりましたので、この公開は何時だろう：ひよっとして、塩屋埼灯台の点灯記念日に合わせてもらえないだろうか：ということ、早速電話で交渉させていただきました。交渉というよりは「お願いします。」が正しい表現でしたが「燈の守り人製作委員会」様からは「協力します。」というありがた過ぎるお言葉をいただきました。

早速、ボイスドラマの視聴会を行うには、どうぞすれば良いかという打ち合わせを、とよまの灯台倶楽部〆の皆様と行いまして、塩屋埼灯台120周年記念等で活用したことがある、塩屋埼灯台の倉庫を視聴会場とすることとしました。ここは、予備品や環境整備の道具を保管する場所となっておりますが、当日までに片付けと掃除を行い、椅子や机の準備とともに、映像を投影する機材等を揃え、特別な視聴会場となるようにセッティングを行いました。

掃除が一番大切だったのが、ボイスドラマ



写真4 灯台倶楽部による年末大掃除



写真5 灯台に掲げた東北地方のキャラクター幟

を映す白い壁を磨くことでしたが、通気口から垂れていた錆び汁（金属製の通気口から風雨による錆びが白い壁を伝っていました。）は、とよまの灯台倶楽部〆代表の超一級掃除士（そんな資格ありません！）の手により純白の壁になり、無事に準備が整うこととなりました。このように、イベントの準備は関係者の皆さんとともに特に力を入れて行っておりますが、塩屋埼灯台はいつも環境整備を行い、来場される方が気持ちよく参観等できるよう努めているところです。

掃除と言えば、写真4を御覧いただきたいのですが、とよまの灯台倶楽部〆の皆さまから、塩屋埼灯台に〆1年間お疲れ様！〆の年末大掃除をしたいという申し出を受け、せっかくイベントで皆が揃いますから、掃除やっちゃいますか！ってことで自分たちが持ち寄



ったヘルメットを装着して、皆でレンズを磨き、階段を掃除して、塩屋埼灯台を労いました。これは、よまの灯台倶楽部<sup>※</sup>の皆様にとつても、灯台と触れ合える、ご褒美イベントとなりました。

擬人化キャラクターPRの方は、東北6県では先に擬人化されている灯台が8基もありましたので、その全てを「幟」として揃えることとして、

「燈の守り人プロジェクト」を盛り上げていこうと考え、関係者の協力を得て実現いたしました。勝手に集めておいて、「これぞ、みちのく灯台擬人化サミット」です。」と言いまわっております。塩屋埼灯台には資料館から灯台までの通路があり、灯台と一緒に撮影出来る



写真6 これが東北地方のキャラクター幟9人（令和5年12月現在）

よう飾ることを想像しながら作り、イメージどおりになりました。良い風景です！

来場した皆様は物珍しく幟と灯台を写真に収めていただいたようで、こっそりSNSをチェックしたところ、アップしていただいています。来場していただいた皆様が広報担当者！ありがたいことです。ただ、灯台の名称（地名）は、なかなか読めないものもあつたようです。皆さん、どこだと思えますか？

せっかくですので、東北地方で「燈の守り人プロジェクト」により擬人化された灯台9基をご紹介します。いただきます。

- ① 艦作埼灯台（へなしさき・青森県深浦町）
- ② 陸中黒埼灯台（りくちゅうくろさき・岩手県普代村）
- ③ 入道埼灯台（にゅうどうさき・秋田県男鹿市）
- ④ 鼠ヶ関灯台（ねずがせき・山形県鶴岡市）
- ⑤ 塩屋埼灯台（しおやさき・福島県いわき市）
- ⑥ 鷲ノ尾埼灯台（うのおさき・福島県相馬市）
- ⑦ 金華山灯台（きんかさん・宮城県石巻市）
- ⑧ 大須埼灯台（おおすさき・宮城県石巻市）
- ⑨ 尻屋埼灯台（しりやさき・青森県東通村）

並べて分かるかもしれませんが、塩屋埼灯台に来場



写真7 叶結びで願いを叶えるストラップ作り



写真8 「燈の守り人製作委員会」「とよまの灯台倶楽部」「福島保安部」記念撮影



写真9 灯台内部での視聴会の実施 プレゼンは福島海上保安部職員

された方が読めなかった灯台は「艦作埼灯台」でした。地名は難しいですよ。

来場した方の中に大学生の方がいらっしやいます。その方は何でも全国の灯台を回って歴史やストーリーを調べ、そして写真を撮影して、大学校で灯台写真展を開く予定なのだとか：そんなことを話しながら、キラキラした目で写真を撮影していました。そういった夢というか、自分がやりたいことに打ち込む方々は、眩しい存在です。至近距離で見た、塩屋埼灯

台の灯りのようです。（燈光会の事務局の誰か!!座布団下さい!）

そして、もう一つご紹介させていただきます、「叶結び」で願いを叶えるストラップ作り体験」は某管区で爆発的にヒットしたイベントで、当部交通担当次長から交通課職員（若手）に技を伝授することで、今後、イベントにおいて海上保安官と来場者の触れ合いの場として活用していければと思います、若手自らの企画により実現いたしました。

次々と来る体験希望者の待ち時間を利用して、灯台展示室内にある資料等を使って、「灯台の役割」を伝え、動画や説明画像を活用して、一人一人丁寧に結び方を教えている若手の姿に、交通担当次長は目を細めておりました。そんな中でも職員の休憩時間等を看板で事前に来場者に対して周知を行い、場が混乱しないように工夫も成されていました。

これにて、交通担当次長から若手への一子相伝！が完了し、来場いただいた皆様のおかげで、ワイワイとにぎやかな1日を過ごさせていただきました。

さて、結びにメインのイベントの紹介ですが、灯台擬人化プロジェクト「燈の守り人」ボイスドラマ第46弾ということで、通常はインターネット上で配信されるものですが、その配信日に連動してイベントを開催することとなりました。

灯台内部の一部を視聴会場として準備を行い、資機材や配信用データを準備していただき、当日を迎えました。今回の塩屋埼灯台で配信されるボイスドラマは塩屋埼灯台配信用特別版に仕上げていただき、ご協力いただいた関係者の皆様には限りない感謝の意をお伝えしたいところです。また、当日は、「燈の守り人製作委員会代表」（日本財団 総合プロデューサー）の

波房氏など関係スタッフの方にもご来場いただき、イベントの状況を御覧になっていただいたうえ、今後の利活用にかかる助言等、関係者とお話しをさせていただく機会があり、有意義なものとなりました。

これからも塩屋埼灯台は、皆さまに支えられ、そして未来に向けて新たな利活用を視野に発展した魅力を発信出来るよう邁進して参ります！

### あとがき

皆様は「歩荷<sup>ほっか</sup>」という言葉をご存じでしょうか。

山を歩く方はご存じかと思いますが、山ボツカとも言つ「荷物を背負つて山越えをしたり、山小屋に荷揚げをしたり、それを職業とする人」のことを言います。

その方々には到底及ばないと言いながらも、福島海上保安部交通課には「元登山家」がおり、塩屋埼灯台への荷揚げと荷卸しを進んで対応してくれました。

特に重たかった物は、イベント用のテーブルで、板を分解して運んだのですが、オフイス用のものを転用したので、色々と合わせて約30キロという非常に重たい荷物を1つずつ2回に分けて運びました。

そんな重たい物を運ばせたのですか！と聞こえそうですが、当部の「歩荷」からは「全然。楽勝ですね」

と笑顔を見せながら力強い足取りで運んでくれました。  
した。



写真10 福島海上保安部交通課 某係長 歩荷 !!



# 大槌港灯台点灯70周年記念イベントの開催

釜石海上保安部

大槌港灯台は、大槌湾を行き交う船の安全を願い昭和28年12月20日、NHKの人形劇「ひよっこりひよたん島」のモデルになったといわれている岩手県大槌町の蓬萊島ほうらいしまに建てられ初点灯しました（写真1）。

初代の灯台は、平成23年に発生した東日本大震災の津波に襲われ、倒壊しましたが（写真2）、大槌港灯台の復旧に際し、同灯台を「復興のシンボル」として

末永く地域の皆様に親しまれる灯台を建設すべく、海上保安庁初となる灯台のデザインを大槌町民から募り、太陽（大槌の未来を明るくしたいという願い）と砂時計（時が経てば必ず復興できるとい希望）をイメージした作品が採用され、平成24年12月に復旧し、現在も地元の漁協の方の協力のもと運用されています（写真3）。



写真1 被災前の大槌港灯台



写真2 被災後の大槌港灯台

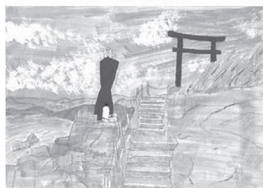


写真3 現在の大槌港灯台

そんな波乱の時代を過ぎた大槌港灯台は、令和5年12月20日、初点灯した日から数えて70年目という節目を迎えました。

釜石海上保安部は、これを記念し、大槌港灯台のライトアップおよび、絵画コンテストを開催し

### 大槌町長賞



「産の上のひょっこり」  
吉里吉里学園中学部9年  
佐藤 西(さとう あかね)さん

### 特別賞



「大槌の景色」  
大槌学園6年  
高清水 麻咲(たかしみず まさき)さん

### 大槌町観光交流協会会長賞



「ひょっこりひょうたんじまと赤とう台」  
吉里吉里学園小学部2年  
松村 葵(まつむら あおい)さん

### 海上保安協会釜石支部長賞



「じまんの海と蓬莱島」  
吉里吉里学園小学部4年  
平野 宗大(ひらの そうた)さん

### 釜石海上保安部長賞



「海に浮かぶ島」  
吉里吉里学園中学部9年  
芳賀 瑛太(はが えいた)さん

写真4 絵画コンテスト入賞作品



写真5 表彰式の様子

ました。

### 「絵画コンテストの開催」

絵画コンテストは、地元の小中学生を対象に7月7日から9月1日まで作品の募集を行ない、8月31日時点で集計したところ、小学校低学年部門に小学生低学年部門に85作品、小学生高学年部門に90作品、中学生部門に9作品の合計184作品が集まりました。

その後、大槌町、大槌町観光交流協会、海上保安協会釜石支部、釜石海上保安部、現在の大槌港灯台のデザインを考案した岩間みな子様による厳正な審査を2回に分けて行った結果、5作品が選ばれました(写真4)。

大槌町民文化祭のイベントの一つとして、令和5年11月4日、受賞者に対し表彰式が行われるとともに(写真5)、11月3日から11月5日正午まで大槌町文化交流センターおしゃっちにて受賞作品の展示が行われ、861名の方が来場され、多くの方々の目にふれていただきました。

## 「灯台のライトアップ」

2つ目の記念イベントとして大槌港灯台のライトアップを行いました。

本ライトアップを企画するにあたり、関係者に対し説明を行ったところ、大槌町教育委員会から「蓬莱島は平成25年8月に大槌町指定文化財(名勝)に指定していることから、ライトアップを行う際は島を損傷させないようにしてほしい」と助言を受けたため、可搬型発電機と作業用LED投光器を工作室から持ち運び、10月2日及び11日の予行を重ね本番に臨むことと

しました(写真6)。

当庁X(旧JALIFE)アカウントのほか、大槌町のホームページとフェイスブックによる周知が行われ、11月1日の本番は、天候晴れ、気温17℃、西の風5m、波0.3mという状況下、1700から1830までの短い時間でしたが、TV1社・新聞1社の取材を受け、初のライトアップは町民の皆様にと時の安らぎを感じてもらった良い機会となったと思います(写真7)。



写真7 ライトアップの様子

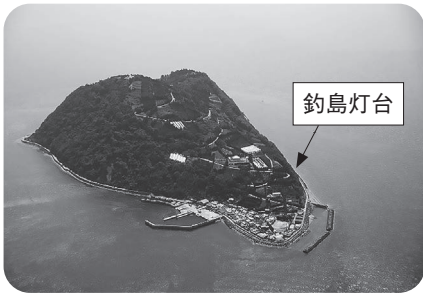


写真6 照明器具の位置の調整

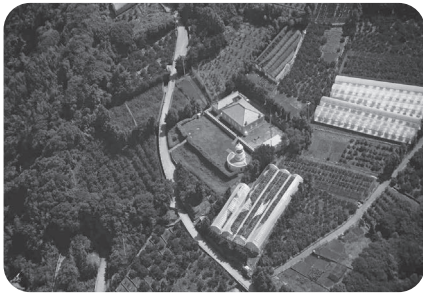
松山の小さな島に灯る近代文化遺産  
 釣島灯台150周年記念行事と国の重要文化財指定  
 松山海上保安部交通課

松山海上保安部が管理する「釣島灯台」は、兵庫開港に伴い瀬戸内海を船舶が安全に航行するために設置された8基のうちの一つで、日本の灯台の父といわれている「リチャード・ヘンリー・ブランドン」によって、明治6（1873）年にあかりが燈された日本で現存する9番目に古い灯台です。

併設する「旧官舎」も同時期に建てられました。「旧官舎」は、昭和38（1963）年に無人化された後に、釣島の方たちの要望等によって、平成7（1995）年に松山市に引き継がれました。その後、「旧官舎」は松山市の御尽力により復元・保存が行われています。灯台と官舎が現地で当時の姿を残しているのは釣島



釣島全景



釣島灯台と旧官舎



釣島灯台と旧官舎



釣島灯台



のみとなっています。

人口は約40人の周囲約3kmの小さな島にある灯台と官舎が、令和5年に設置点灯から150周年を迎えるにあたり、「灯台の重要な役割と歴史、釣島灯台と旧官舎の文化的価値について地元を含むより多くの方々に知ってもらう」ことを目的として、松山海上保安部では、令和4年から松山市と協力し、様々なイベント等を実施しました。そのうち10件の活動をご紹介します。

催しました。「坂の上の雲ミュージアム」は明治という時代をテーマに各種資料を展示している博物館で、明治期に建設された釣島灯台のジオラマも展示されているなど、なじみがあることから同施設で展開しました。翌年の主要イベントを控え、トライアルとして実施した第一弾目のイベントで、パネル展示はもちろんですが、報道に取り上げられたことでより広く周知できました。

① 第154周年灯台記念日パネル展「松山の燈台」

日程…令和4年10月28

日…11月4日

場所…坂の上の雲ミュージアム 2階

ラウンジ

内容…灯台記念日関連

行事として翌年

150周年を迎

える釣島灯台を

メインとした写

真パネル展を開



ミュージアムラウンジで開催した  
灯台パネル展

② TV番組制作に伴う撮影協力

日程…令和4年8月4

日(撮影) 10

月30日(放送)

番組…中村獅童の灯台

見聞録瀬戸内海

編(BSテレビ

東京、南海放送

等)

場所…釣島灯台、旧官

舎

内容…日本財団による



ドローン空撮含む撮影と取材の様子

「海と灯台プロジェクト」の一環として灯台特集番組制作クルーに同行し、松山市職員（学芸員）と連携のうえ併設された釣島灯台と旧官舎の取材と撮影に対応しました。

③ 地元新聞取材協力（元旦紙面への特集記事掲載）

日程…令和4年12月2日（取材） 令和5年1月1日（掲載）

報道…愛媛新聞

場所…釣島灯台、旧官舎

内容…地域の大手新聞社である愛媛新聞に釣島灯台の歴史説明を行った結果、記者が現地同行取材を行うこととなり、松山市職員（学芸員）ともに対応しました。

「島の宝 航路照らし150年 400隻の道しるべ 西洋式旧官舎 生活の跡」と題して、令和5年元旦の新聞に紙面の大部分を占めた特集記事が掲載されました。

④ 離島振興クルーズにおける釣島灯台等公開

日程…令和5年3月25日  
場所…釣島灯台、旧官舎

内容…松山離島振興

協会が島しょ部活性化を目的に企画した

「瀬戸内海探訪クルージング」において、

釣島を含む離島の魅力を巡るツアーに同行し、同協会

スタッフ、松山市職員と連携して、参加者70名に対して、灯台と旧官舎の施設内部公開を実施しました。

台と旧官舎の施設内部公開を実施しました。

⑤ FMラジオ公開生放送に出演しての釣島灯台150周年周知

日程…令和5年5月13日

番組…坂の上のラジオ（南海放送FMラジオ） 番組ブログ掲載含む

場所…坂の上の雲ミュージアム 特設スタジオ  
内容…毎週土曜正午放送のラジオ番組の1時間の公開



ツアー参加者への施設公開

生放送に出演し、釣島灯台の歴史や役割り、今後の記念イベントについて発信しました。

⑥ 釣島サポーターへの

灯台・旧官舎公開

日程…令和5年7月22日

場所…釣島灯台、旧官舎

内容…松山市主催で、敷

地の草刈り、旧官舎の清掃、木柵の塗装等の環境整備活動がボランティアにより行われ、これにあわせ、参加者50名に対して、灯台と旧官舎の内部公開と説明を実施しました。



釣島サポーターによる活動と施設公開



公開生放送とブログ用の記念撮影

同ボランティアは有志の市民で「釣島サポーター」と言われ、例年1回の活動であったところコロナ禍で中止され、5年振りに再開されたものです。

⑦ 釣島灯台150周年を記念した市民向け講座

日程…令和5年9月23日

場所…坂の上の雲ミュージアム 3階会議室

内容…坂の上の雲ミュージアムが市民を対象に開催している事業「ミュージアム講座」に招かれ、釣島灯台の歴史と文化的価値を紹介する90分の講座を行いました。公募により参加した一般市民20名に聴講いただきました。

⑧ 釣島灯台150周年記念パネル展「日本近代の松山燈台史」

日程…1回目 令和5



ミュージアム講座での講義

年6月9日～6月25日

2回目 令和5年10月27日～11月26日

場所…坂の上の雲ミュージアム 2階ホール

内容…釣島灯台をメインとした写真パネル展をした。展示場所を前回のラウンジからホールに移し、松山市が所有する資料もあわせて23枚のパネルを展示しています。2回目はロングランイベントとし、11月1～30日は、記念パズル(2種類)の無料配布、ミュージアムカフェで、釣島灯台をモチーフとしたド



ミュージアムホールで開催した灯台パネル展



150周年記念  
ドリンク・クッキー

リンク・クッキーの提供も行われました。

⑨ 釣島灯台・旧官舎 150周年記念シンポジウム  
日程…令和5年11月3日

場所…坂の上の雲ミュージアム 2階ホール  
内容…「海と日本プロジェクトinえひめ」主催の海と

灯台ウィークに伴うシンポジウムに参加し、灯台の歴史説明や利活用に関してデイスカッション等に参加しました。シンポジウムでは、釣島灯台の歴史説明のあと、松山海上保安部交通課長、松山市職員(学芸員)、芸能界で活躍するライブコマーサーの「高岡奈々葉」さんやマルチ活動家の「杉作丁太郎」さん



著名人とのパネルディスカッション





松山海上保安部長挨拶



松山市教育委員会教育長祝辞



YouTubeライブ配信



海上保安庁音楽隊コンサート

がパネラーとして参加し、テレビ局レポーターのMC「宇都宮郁美」さんの進行で、一般市民40名が聴講する中で様々な意見交換が行われました。この模様は、11月24日にテレビ放送もされています。

⑩ 釣島灯台・旧官舎  
コンサート

日程…令和5年11月18日

場所…坂の上の雲ミュージアム 2階ホール

内容…150周年のメインイベントとして、記念式典

と海上保安庁音楽隊アンサンブルによる記念コンサートを開催しました。現地灯台等施設の紹介動画放映、灯台の役割と歴史説明を含めた松山海上保安部長挨拶、灯台等施設の文化的価値に触れた松山市教育委員会教育長祝辞、また、迫力ある音楽隊演奏のそれぞれに参加した関係者と一般市民60名から盛大な拍手がありがとうございました。

この式典及びコンサートの模様は、YouTube海上保安庁公式チャンネルでのライブ配信も行いました。

150周年にかかるイベントは、松山海上保安部と松山市が共催し、公益社団法人燈光会、公益財団法人海上保安協会広島地方本部・松山支部、一般社団法人海と日本プロジェクトinえひめの後援をいただきましておかげで、当初の目的を達成できたと思います。

一方、国の重要文化財化に関わり、令和4年から文化庁の主任文化財調査官による2回の現地調査と多数の書面調査に海上保安庁交通部、第六管区海上保安本部交通部、松山海上保安部、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会事務局の職員が対応しています。



文化庁による現地調査



NHK松山放送局（11月24日）



南海放送（11月24日）

文化庁文化審議会は、令和5年11月24日に開催されました文化財分科会の審議と議決を経て、「釣島灯台」と「旧官舎」を重要文化財に指定しよう文部科学大臣に答申し、令和6年1月19日に指定（告示）されました。

答申にあたって、第六管区海上保安本部及び松山海上保安部において、文化庁、愛媛県、松山市と調整のうえ、松山市と松山海上保安部から重要文化財指定にかかる同時広報を実施するとともに、事前現地取材にも対応した結果、TV報道5社のニュース、新聞2社、複数のインターネットニュースにおいて広く報道がなされました。

上記の令和4年から150周年の各種イベントを開催していた経緯もあって、報道関係者からも高い関心があったものと考えております。

この報道の反響について、令和6年1月に、テレビニュース

で知った大阪府に住む80歳の男性から松山市教育委員会事務局に電話があり、「自分の父が釣島灯台で勤務していた昭和25年頃に家族で官舎に住んでいた。当時の写真を寄贈したい。」との連絡がありました。

灯台が無人化となる以前に勤務した職員OBやそのご家族については、旧官舎の復元事業がなされた平成10年頃に松山市と松山海上保安部が探したものの見つけるに至らなかった経緯があったようですが、今回の報道を通じて、思いがけない方との出会いと貴重なお話など期待できそうです。

最後に、各種資料や写真を提供いただきました公益社団法人燈光会様、令和3年1月5日発行 燈光「明治の灯台の話(63) 釣島灯台」の執筆にあたって釣島灯台の歴史をお調べくださった灯台研究生様に深く感謝申し上げます。

## 令和6年 尻屋埼灯台及び入道埼灯台参観開始について

### 尻屋埼灯台

青森県



### ★尻屋埼灯台は下記の通り参観いたします★

参観期間 令和6年4月6日(土)～

令和6年11月4日(月)

参観時間 9時～16時

※4月30日までは9時～15時

燈光会尻屋埼支所 ☎ 0175-47-2889



尻屋埼の参観状況

### 入道埼灯台

秋田県



### ★入道埼灯台は下記の通り参観いたします★

参観期間 令和6年4月6日(土)～

令和6年11月4日(月)

参観時間 9時～16時

※4月6日～10月15日 土日等は

9時～16時30分

燈光会入道埼支所 ☎ 090-1931-9706



入道埼の参観状況



これは図書館館長と製作した参加者募集のチラシです。

若松海上保安部では、孤島や岬の先端で黙々と海を照らす灯台の意義について、灯台の仕組みや歴史などを学びつつ、海上交通安全について子供たちに理解してもらい、灯台の普及啓発活動を行うことで灯台の灯

を守る意味について改めて考える機会を設けることを目的として、北九州市立若松図書館のご厚意により灯台講座を開催しました。講座では若松航路の始まりとともに、北九州市若松区及び戸畑区民から

# わくわく! 灯台塾 in 若松図書館 冬休みの灯台講座と工作教室

若松海上保安部

「どんな役目を果たしているのか」と質問の多い牧山船舶通航信号所についても運用開始からの歴史的意義を伝えるため、冬休み期間を利用して子供たちが集いやすい図書館の中で講座を実施し、冬休みの課題にも活用してもらえる場としました。

若松区内全小学校全児童向けにチラシを発送したところ、同図書館には事前に23名の参加希望の申込がきていました。講座の実施中、図書館司書の方々が受付や子供達の対応を積極的に支援してくださいました。

## 【内容】

### 1 実施日及び場所

12月26日(火) 13:15～15:15

北九州市立若松図書館(洞海湾が一望できる図書館)

### 2 実施内容

(1) 灯台講座 13:15～14:15

① 灯台のしくみ説明会(写真1・2)





写真 1



写真 2



写真 3

交通担当次長により、灯台の歴史や灯器の説明、牧山船舶通航信号所の紹介などが説明され、大人だけでなく小さな子供たちも真剣に話を聞いていました。

フレネルレンズをカットしたものとレーザーポインタを利用した光を遠くに届ける原理の説明には多くの子供たちが興味津々で、自然と次長の顔もほころんでいました。

6等フレネルレンズ内には実際に電球交換器を設置

し、ほのかに美しい光が暖かく子供たちを照らしていて、心も温まる光景でした。

## ② 灯台を守る仕事のお話会（写真3）

最後の灯台守である、海上保安マイスターの前畑正信氏による灯台守の生活や役割のお話会では、かつてインフラも自分たちで維持し、孤島で生活していたことが話されると、特に大人たちが感心して聞いていました。子供たちには今の水や電気が普通に使える生活



が当たり前前と違ってはいけないう話もされてお  
り、メモをとる小学高学年の女子児童もいました。

(2) 工作教室 1415〜1515

① 光るミニ灯台製作(上級コース)(写真4・5)

あらかじめ当管区所管灯台のペーパークラフトを作  
成(20基ほど)しておき、子供たちが選んだ灯台に電  
池ボックスとLED端子を圧着してつなぎ、実際にL  
EDが灯塔に灯るような講座を行いました。



写真4



写真5

子供たちは圧着工具の使い方に初めは戸惑っていま  
したが、すぐに慣れてどんどん配線をつないでいま  
した。完成して灯火が点灯するとうれしい歓声があちこ  
ちで聞かれました(LEDは七色に光るものを使用し  
ていますので、白いクラフト灯台によく映えています  
た)。

併せて廃棄予定の半導体を利用して、ハンダゴテの  
体験も行いましたが、女子児童に大変人気のコーナー  
となり、講師として対応する職員たちもとても有意義  
な時間となったようでした。

② 不思議な船の折り紙  
教室(初級コース)(写  
真6・7)

海上保安マイスター前  
畑氏による両面コピーし  
た台紙を利用した、船の  
折り紙教室を小学校低学  
年以下対象に行いまし  
た。子供たちは前畑氏の  
話を良く聞きながら真剣  
なまなざしでどんどん折



写真6



写真7

イは職員製作のポストカードがメインでした。灯器を並べた写真を使ったカードはまさしくクリスマス風でお母さま方に人気でした。

併せてパネル展示も行い、灯台に関する理解を十分深めてもらうことができました。

今回のイベントは多くの子供達に灯台に興味を持ってもらえるような講座として実施したところですが、付添の父兄からも高評価を得ることができ、併せて海の事故防止のチラシを配布するなど海上保安思想の普

り進めていました。1隻折り終えると、もう1つ折りたいと要望も多く、難しい折り方にかかわらず1人で2隻、3隻完成させる子供もいました。

### 3 その他(写真8・9)

今回のノベルテ



写真8

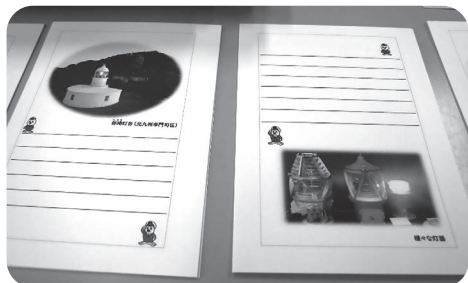


写真9

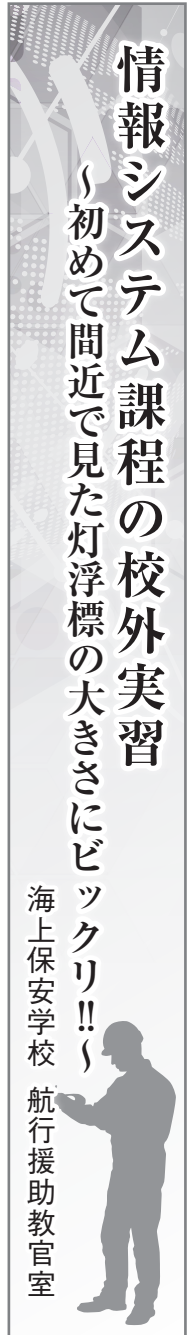
及啓発の場ともすることができました。  
講座終了時間となっても質問や機器を見たいという声もあり、「なかなか帰られない親子連れも多く、有意義な講座となりました。」と同図書館館長からも御礼の言葉がありました。

若松海上保安部では今回のイベントで多くの市民の笑顔を目の当たりにし、引き続き地域の皆様に灯台と海上保安庁のことに興味をもってもらえるようなイベントなどを進めていきたいと改めて思いました。

# 情報システム課程の校外実習

初めて間近で見た灯浮標の大きさにビックリ!!

海上保安学校 航行援助教官室



海上保安学校情報システム課程第31期生（2年生）

21名は、令和5年11月6日（月）に当校小型船舶操縦教官室の協力を得て、実習船「あおば」に乗船の上、舞鶴港内での実習を、11月13日（月）には第八管区海上保安本部交通部及び舞鶴海上保安部の協力を得て、空山AIS陸上局及び舞鶴浮標置場において実習を行いました。

舞鶴港内での実習は、港則法に基づく航路や航路標識、港湾施設、港内船舶の状況を確認しました。学生達は、船舶交通の安全に寄与する航路標識の重要性について再認識するとともに、GPS機器を使用して灯浮標の位置を測定し、告示位置との誤差を確認することで振れ回りについて学ぶなど、海の道しるべとなる航路標識の保守の大切さを感じていました。

空山AIS陸上局の実習では、舞鶴海上保安部交通課職員から保守や無線検査などで使用するスペクトルアナライザー等各種測定機器の取扱いについて学んだ

ほか、測定器を守るための「減衰器」の重要性を実感していました。

舞鶴浮標置場での実習では、陸揚げされた灯浮標を初めて間近で見ると、灯浮標の大きさに圧倒されたとともに、接環の分解・組み立て作業を行ったほか、第八管区海上保安部交通部整備課の方からライフジャケットの着用、灯浮標に移乗する際の注意点について説明を受け、安全管理の重要性を強く感じていました。

どれも現場の交通課等での業務に直結する実習ということもあり、学生達は熱心に質問するなど真剣に実習に取り組み、授業で学んできたことの更なる理解が深まりました。

このように現場に即する実習は、管区本部及び部署の皆様のご協力なくして実施は困難であり、将来を担う学生の育成のため、今後ともご協力のほどよろしくお願いたします。

卒業まで、残すところ1か月足らずとなり学生達も



灯浮標位置測定の様子



機器測定の様子



標体の見学の様子



接環の分解等の様子

現場への不安を感じつつも、一日一日の学校生活を大切に過ごしながら現場赴任へ向け、少しずつ成長しているのを実感しております。  
それでは、今回実習に参加した情報システム課程6名の学生の感想を次のとおり紹介させていただきます。

【実習参加学生の感想】

情報システム課程第31期A 今田 佑飛 学生



今回の実習では、授業中に話を聞くのと実際に見て学ぶのでは印象の残り方が違うと感じました。

実習前は、海上保安部交通課がどのような仕事をするのかイメージが湧きませんでした。この実習を通して前よりも現場で自分がどのような仕事をするのかイメージが湧いた気がします。

交通課が灯台や灯浮標の保守・整備を行うこととは知っていたのですが、実際に実習船で港内に出てみると、舞鶴港内だけでも多くの灯浮標



があり驚くとともに、「担任水域内のすべての灯浮標を点検するのに骨が折れるのでは？」と感じました。

灯浮標に近づいてみると意外に大きく、波により揺れており教官から灯浮標の上に登ったり中に入って作業すると聞き、命がけの仕事なのだなと思いました。

第八管区海上保安本部交通部整備課の方から、灯浮標で作業する際の危険な箇所や整備するときのポイントを教えてください、実習前よりは仕事のイメージができるようになりました。

私の卒業後の最初の配属先は船を希望しています。2年後は陸上勤務になり海上保安部交通部に配属となる可能性も十分にありますので、灯浮標に関する知識や保守・整備方法について理解できていないところが少しわかって良かったです。

現場赴任まで残り約3か月となり不安ばかりありませんが1日1日を大切に過ごし、日々精進できるように積極的に授業や残りの実習に取り組み、分らないことがあれば教官に聞いたりして、少しずつ現場赴任に向けて準備したいです。

交通部の職員が灯台や灯浮標の保守・整備を行うことと海を航海する人々の安全を確保することに寄与できるの、これらの仕事もやりがいのある立派な仕事

だと思い、現場に出ることが待ち遠しくなりました。

情報システム課程第31期A 岸本 祥生 学生



私の採用管区が第八管区ということもあり、実際に現場に出て舞鶴港内の灯浮標等を点検することがあるかも知れないため、良い経験となりました。

舞鶴港内の灯浮標等を見て感じたことは、灯浮標の大きさにも驚きましたが、灯浮標の揺れに一番びっくりしました。

波の影響で揺れていましたが、この位の揺れだと飛び乗れると聞き現場に出て、自分が灯浮標に飛び乗ることを考えると腰が引けてしまいそうですが、命を一番に考え安全管理をしっかり行い、与えられた仕事を頑張っていきたいと思えます。

また、今回の実習では舞鶴港内を実習船で回り灯浮標を間近で見、GPS測定器を使い告示位置と測定した位置の差を測定してみました。

測定結果として、告示位置と測定位置との差は約35mでした。私の予想では数十cmくらいかと予想していましたが、私の予想よりも離れており驚きました。



今回の実習や授業で学んだことを生かし、現場に出ても日々精進していきたいと思えます。

情報システム課程第31期 A 下田 和樹 学生



今回、実習船「あおば」に乗船し灯浮標や灯標を初めて間近で見ることができました。

初めて見る灯浮標は、自分がイメージしていたものより大きく迫力がありました。

海上保安部交通課の職員が、定期的に灯浮標の中に入り整備をしないといけないことを教えていただき、自分が実際に点検することをイメージしながら見ることでできて良かったです。

また、鳥の糞の影響により灯浮標のソーラーパネルの充電が行き届かなくなり、結果、灯浮標が消灯してしまうケースがあるらしく、掃除なども重要な整備になると聞きました。

灯浮標毎に色や灯器の光り方が異なっていて、それぞれに意味があることを改めて知り、現場で業務をする上でそれらの意味を勉強していかなければならないと実感しました。

海が時化するときには灯浮標に移乗する際、ライフジャケットを着用せずに落水した事故も過去に発生しているのので、私が現場に配属され同様の作業をする際には、ライフジャケットや墜落制止用器具をしっかり身に付け、安全第一で細心の注意を払いたいと思いました。

私たち情報システム課程31期は卒業まであと3か月を切り、学校で学ぶ時間もあと少しとなりました。今後も別の校外実習が予定されており、座学では学べないより現場をイメージした活動ができるので、現場で働く方々や教官方の説明された言葉を一つ一つ忘れないよう重要だと思ったことはメモを取り、わからないことがあれば積極的に質問をして自分の身になるようにしていきたいと思っています。

今回の実習では、海上保安官の業務の一部を知ることができたと同時に、これから海上保安官として仕事をしていくという実感も湧いてきて意識向上に繋がったことと思います。

学んだ知識を現場で活かせられるようにしていきたいです。

情報システム課程第31期B 杉山 潤 学生



A I S 陸上局では、学校内で使用する測定機器とは操作方法が異なる測定機器を使用し、空中線電力やスプリアスの強度等の測定を行ったほか、設備の二重化により障害や機器の故障が起こったとしてもA I S 陸上局の運用を停めない構造・機構について学ぶことができました。

他局に混信や影響を与えないような空中線の配置について実際に見学し、空中線の指向特性についても学ぶことができました。

また、浮標置場では陸揚げされた灯浮標を間近で見ると、その大きさと特にその高さに驚きました。船からみると灯浮標の半分ほどが海面から顔を覗かせ、それだけでも大きいにも関わらずそれと同じ大きさの構造物が海中にあり、これこそ「氷山の一角」といった感じで、灯浮標がどれだけ大きいかそのサイズを実感することができました。

灯浮標の内部スペースは広く、灯器の消費電力に応じた蓄電池の数を多く置くような工夫された造りになっており、海上から見たイメージとはギャップがありました。

現場を見据え海上保安学校では学ぶことの少ない陸上の業務について、現場の方から生の声を聞き、直に質問でき、詳しく教えていただける良い機会となりました。

現場配属まであと残り3か月あまり、それまでに現場で通用するレベルの知識・知恵を会得し、自身を高めたいと思っています。

情報システム課程第31期B 田島 遼人 学生



今回の実習は、早ければ初任地となる可能性もある海上保安部交通課の業務に対する心構えとなりました。

まず、空山A I S 陸上局では、無線検査に向けて行うべき準備や測定機器を取り扱う上での注意点等について学ぶことができました。特に無線検査は、巡視船の通信科においても実施するため、現場赴任が迫った私たちにとっては、現場での業務に直結する内容を伺うことができ大変勉強になりました。

舞鶴浮標置場では、座学において理解しきれなかった灯浮標点検時の危険箇所等について、実際の標体や

鉄鎖を見学させていただくことで理解を深めることができました。

危険な作業を実施するのは巡視船艇乗組員であるという印象がありました。今回の実習により、灯浮標の保守・整備においても危険を伴う業務であると感じました。

今回のような実習は、座学で得た知識の再確認ができるとともに、現場の仕事の間近で見学することにより、将来自分が任される仕事のやりがいや責任等について考えるきっかけとなることから、学校在学中に現場を意識できる貴重な機会であると思います。

分からない点は、教官等に伺うなど今後も現場に関する情報収集を行い、約3か月後に迫った現場赴任に備えたいと思います。

〓情報システム課程第31期B 宮尾 航平 学生〓



今回の実習は、普段学校の授業などで見ることでできない装置や、授業で得た知識を再確認することができ、貴重な時間になりました。

実習の中で海上保安部交通課の方や教官から教えていただき、AIS陸上局ではAIS

がどのような装置でどのように運用されているのかわかりました。併せて無線検査の測定方法も教えていただき、測定器を壊さないため「測定器と陸上局装置の間に減衰器を入れるのを忘れない。」といった注意点や測定の要領がわかりました。実際に現場で無線検査を受けることは間違いなくあるので、今回学んだことを少しでも活かせるようにしたいです。

また舞鶴浮標置場では、置いてある灯浮標が想像していたよりも大きく、標体の中に入りたり触れたりしてきましたので、現場での点検作業のイメージが湧いてきました。第八管区海上保安本部整備課の方から、点検時の危険箇所や注意点を教えていただいたので、現場配属に向けて安全に対する意識を向上させることができました。

今回の実習を終え、現場に向けてまだまだ知識不足だと感じると同時に、授業で聞いた知識を定着させることができました。

現場で海上保安官として働くイメージも少しずつできてきました。

これからも現場で働く自分を想像しながら日々学んでいきたいと思っています。

## 角島灯台 (後編)

灯台 研究生

ジョセフ・ディック

角島灯台のレンガ造の退息所(官舎)は、昭和61年4月に無人化された後、旧豊北町に払い下げられ、現在角島灯台記念館として一般に公開されています。中に入ると、最初の部屋にはジョセフ・ディック(以下ディック氏)の像が備えられています(図16)。ディック氏は、技師として角島灯台の建設にたずさわり、完成後も角島に留まり燈明番教授方として燈明番(灯台職員)の育成や指導に力を注いだとされています。しかし、

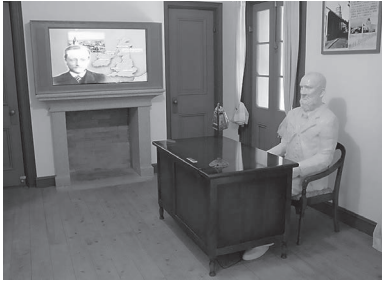


図-16 角島灯台記念館のジョセフ・ディック像

ディック氏の在籍当時の記録資料を見ると、彼は技師(Engineer)ではなく灯台保守員(lightkeeper)として雇用され、角島灯台完成後には別の灯台に在籍した記録が残されています。お雇い灯台保守員の中で、なぜディック氏だけが灯台を建設した技師とされ、人形像まで作られ今日に伝えられているのでしょうか？

ディック氏は、明治政府が採用した最初のお雇い灯台保守員の一人でした。工部統計志燈臺之部の記録によれば、明治2年9月14日(1869年10月18日)に採用されています。それまでは、英国スコットランドのLittle Ross灯台にてAssistant lightkeeper(灯台保守補員)として勤務していたことが、エディンバラのスコットランド国立公文書館に保管の灯台保守員記録(lightkeeper Register)(図17)に見られます。2年の就労後にPrincipal lightkeeper(灯台首員)に格上げされ来日します。ブラントンより1歳年下の1842年生まれ、エディンバラ出身の27歳の青年灯台保守員でした。

ディック氏は、日本では角島灯台のほか伊王島、鯛崎、野島埼の各灯台に燈明番(後に燈明番教授方)の職名で勤務していた事実が、大隈文書の灯台職員在籍記録、英字新聞 JAPAN WEEKLY MAIL の灯台訪

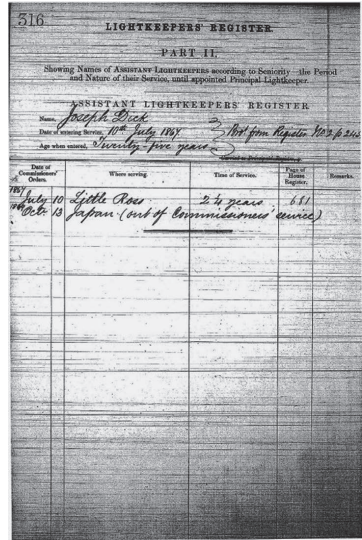


図-17 ディック氏の  
lightkeeper Register  
(仲田博史様提供資料)

問記事、明治丸灯台視察報告など当時の記録資料から確認できます。ディック氏の娘山本あい氏の著書「追想録」には、神子元島灯台、六連島灯台にも勤務したと見られますが、これらの灯台での勤務記録は今回確認できませんでした。

前記の英国での勤務記録を始め、ディック氏の知られざる情報を銚子ブラントン协会会长の仲田博史様から今回提供いただきました。仲田様の現地での調査結果によると、ディック氏はLittle Ross灯台勤務時に1849年生のJessie Wilson Milneと結婚し、来日の前年にはAlisonという名の男の子が誕生しています。続いて1870年に妻の郷里のエディンバラPenicuikにて

Joseph、1872年横浜外人居留地43番地生のJohn、1873年横浜弁天生のCatherineの4人の子供をもうけています。子供の出生地から、妻のジェシーは1870年以降に来日していたことが分かります。しかし彼女は、1875(明治8)年に檜野埼灯台(Oshima)から4人の子供と共に帰国し、以降ディック氏のもとに戻ることはなかったとのことでした。

この調査結果からディック氏は、角島灯台建設中の明治8年に檜野埼灯台に居たことが推測されます。この明治8年頃にディック氏は懲戒処分を受け降格されています。国立公文書館蔵工部省第三回年報燈台局報告にある明治10年の灯台視察船明治丸の灯台視察報告には、野島埼灯台の報告に次の一文が見られます。

先般暴風ノ節破船困難人ヲ救助スルガ為メデック氏並日本番人等盡力シ又デック氏ハ私資ヲ抛テ衣食旅費等ヲ供與シタリ

同氏ハ凡ニケ年前懲戒ノタメニ等灯明番ニ降級セラレシニ爾後品行端正ニシテ同氏在勤ノ灯台執レモ取締方行届タリ依テ一等へ復職セラレン事ヲ懇望ス

降格処分を受けた灯台で、その後も長期間勤務する



ことは通常考えられないため、樫野埼灯台で降格後に角島灯台へ赴任したものと判断します。点灯開始の翌年には野島埼灯台に居たことから、角島灯台には竣工前後の短期間に在籍しただけとなります。技師として角島灯台を建設し、その後も灯台に留まり燈明番教授方として在籍したという話と大きく矛盾します。

しかし、ディック氏が角島灯台を建設したという逸話は古い時期から伝えられていたようです。明治32年から3年間角島灯台に勤務した萩原新造（ペンネーム相模太郎）の燈光記事「回顧片々六十年」（昭和11年8月号掲載）に、ディック氏とのエピソードが次のとおり見られます。

明治三十三年の或日、角島燈臺下へ四五十噸位の小汽船が着いて一人の中老西洋人が上つて来た。それは同燈臺を建設したデツキ氏であつたのである。神戸にて牛肉輸出商を営み居り所用にて門司迄来たが昔懐かしきま、態々船を寄せて来訪したとの事であつた。暫くして帰りがけに「燈臺建設當時神戸から帯同したボーイ某が角島の婦人を妻にして残留して居る筈だが二十十年後の今日彼の消息を知らずや」との問であつた。兼てより聞き知つて居たので目下漁業をなし居るもあ

まり豊かならざる生活の如く見受けられると答へた。其れを聞いてポケットより十圓紙幣一枚抜きとり之を彼に渡して呉れと託して辞去した。其時彼は折悪しく沖へ漁業に出て居たので帰宅後其趣を傳へると舊主人の厚き温情を喜ぶと共に態々来島した二十年前の舊主人に會ふことの出来なかつたことを泣いて惜しんだ。汽船のボーイに大枚十錢のポチ、旅館から十錢の茶代に立派な受取が来る時代の十圓は大金であつた。

明治33年当時から既にディック氏が角島灯台を建設したとされていたようです。ただし、ディック氏が灯台の建設に関与した話は角島灯台だけで、このような回顧録や島の言い伝えにしか見られず、公式な記録書



図-18 晩年のディック氏  
(著書「追想録」掲載写真)

には見当たりません。判明している彼の経歴からは、壮麗な角島灯台の建設工事を監督できたとはやはり考えられません。工部統計志の燈台附属外国人の記録によれば、彼は明治12年6月30日付で燈明番教授方の任期を終え、角島灯台を最後に灯台の職から離れます。その後は帰国せずに日本人と再婚し、3人の子供をもうけ、大正2（1913）年に神戸にて生涯を終えています。

ジョセフ・ディックは檜野埼灯台で家族と別れた後、角島灯台に判明しているだけでも2度も勤務しています。寂しさを紛らわすかのように角島の島民と親しく交流し、島民らは見慣れぬ西洋人が慈悲深く品行方正な振る舞いで日本人灯台職員を育成する姿に強烈な印象を受け、角島灯台創成期の立役者と見なし、いつしか灯台の建設者として島内で語り継がれていたのではないのでしょうか。その逸話が今日まで受け継がれ、記念館の彼の像に結晶されたように思われます。

### 角島灯台の珍事

萩原新造（相模太郎）の回想記事は、昭和初期の燈光誌上にタイトルを変え何度も掲載されています。角島灯台勤務時の回想記事は数多く、昭和11年11月号の

「回顧片々六十年」には次のような珍事が記されています。

角島燈台で或冬の夜当直をして居ると一時過ぎ大きな聲で「ヤア ヤットルカナ 君は誰か」と来たビックリ振りかへれば髭を垂れた大男が足音もさせずに上って来て後に突立って居る驚かざらんと欲すも豈得べけんやである。「俺は本所の○○だ巡廻に来た、首頁を呼べ」と云ふ、此方も少々惶はて非常号笛を鳴らしたので全員飛び起きて上って来た、すると又ゴホンゴホン咳をしながら一人の見知らぬ男が上って来る同行の×書記であった、其夜は休んで翌日看守助手の成業試験をなし一般視察をした、○氏と堀首頁とは昔の同期生であったとか公務を了へた其後は互に痛飲夜を徹し其翌日辞去した、冬の寒い夜中海を渡つての視察は思ひもよらなかつたのである、後で聞けば看守助手の成業試験を兼ね臨時視察の為十数ヶ所の燈台へ出張を命ぜられたものである、書記は新任早々であるが技手は長年燈台生活をした者、単心不動燈の一人詰燈台を夜襲し燈室を離れて居たと云ふ麻で一々手続書を徹し十数ヶ所視察して七人か八人を譴責処分にした、自分では大手柄を立てた心組で復命した

處、草間所長は内心頗る斜めの御機嫌であったと伝聞した、其為か否かは分らぬが本所在勤一年足らずで臺灣へ行った、同行の書記も間もなく死亡した、尤も之には規定の不備もあつたので其後一人詰燈臺の当直規定は改正された。

この様な不意打ちの夜襲視察は、草間所長退官後の大正初期にも行われていました。視察に同行する若手職員之苦労も相当で、当事者であつた高井恵作氏の回想記事も燈光に残されています。

萩原氏の回想記事には、辺境の灯台ならではの笑い話も見られます。昭和14年8月号の「坊主になつた話」です。

近年本職の和尚さんでも髪を剃って居るのは稀に見る位で何れもバリカンで短く刈って居る、現代で坊主頭と云へば一分刈の事である。以下は下らない話だが一面又當時の時代相を知るよすがともならぬこともあるまい。時は明治三十四年角島燈臺への出来事である。當時同島内には床屋が無かつた。其都度特牛迄渡るのも億劫なので村の漁師中の器用な若者等を頼んで髪を刈るのを常とした。其れも丸型の刃先の短ひ裁縫鋏で

黄楊の櫛を用ゐて刈るので階段が出来たり、虎斑が現れたり、ハイカラ式の頭は出来上がらない。ハイカラと云ふ言葉は其頃から流行り出したやうに覚へて居る。僕の前に在勤した平石大円氏（図19）は、元同島某寺の和尚さんで、何時もクリクリに頭を剃って居たので、首員の堀初之助氏始め補員連も時々其れを真似たとか、僕が赴任後間もなく、五六日後に視察船が来るから今剃って置けば其頃は丁度宜しい一分刈り頭になるからと堀首員、寺西首席、藤岡助手と互に剃り合つて居た。僕も勧められるまゝ、剃って貰ふ、イヤイヤ痛ひの何のつて其時分安全剃刀などは漸く新聞の広告に見へ始めた位でバリカンも片田舎の床屋までは普及して居なかつた。僕の黒い顔は別として他の三人共白

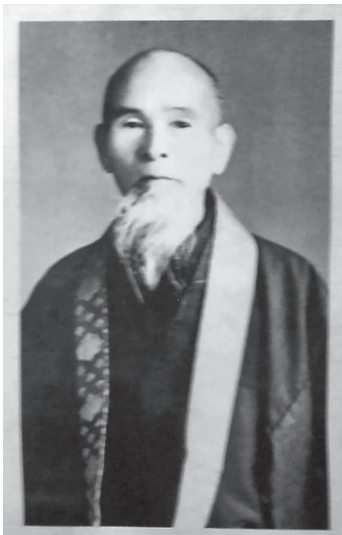


図-19 平石大円氏（角島灯台記念館揭示説明パネルより）

ひ方でないが頭の剃り跡だけは際立って青白い。中老知名の首頁から二十二三の青年補頁と茲こゝに四人の大入道が出来上がった譯だ。處が予定は外れて五六日後に來る筈の視察船が出し抜けに其翌日來てしまった。此れは、と一同頭を撫でて見ても追いつかない、視察員を海岸に迎へた時は帽子に手をかけただけでゴマカシたが、応接間へ來てから挨拶をする四つの入道頭を見詰めた視察員一同口をあんぐり呆れて物が言へぬとは此んな時のことか。やがて其内の一人が吹き出してしまった。次いで他の一人が、官吏たるべきものが四人揃ってクリクリ坊主になるとは体面に係わりはせぬかとの説も出た。堀首頁は床屋の無い片田舎で頭を剃った位では体面に係る程の事もあるまい。本所の〇〇技手は始終坊主で居るではないかと弁解する。視察員の一人曰く〇〇技手は病的に毛が生へないので止むを得ず坊主になって居るアレは例外だと言はれたが其以上お叱事もなかった。

文中の平石大円氏は、明治21年7月に臨時手伝見習として角島灯台で採用され、1年2ヶ月後に一旦辞めた後、同31年12月から9ヶ月間再度角島灯台に勤務し、各地の勤務を経て同45年4月から大正3年3月まで角

島灯台長で居たことが、角島灯台経歴簿（燈光会保管）に見られます。角島の浄楽寺の住職として写された写真（図19）が、角島灯台の名士としてディック氏の写真とともに角島灯台記念館に掲示されています。

次も視察時のエピソードです。年に1、2回の恒例の視察は、当時の灯台職員にとつて忘れがたい出来事だったようです。

明治34年新発田丸（灯台視察船）來航の直前、四重心火舎ほや二本の過払ひが在ったのを村上首頁（堀首頁の後任）の命で僕が柵外の茅株の中へ隠して置いた處、巡廻員連が帰船の際総がかりで柵外に出てキリギリスを捕り始めた時にはシマッタと思ひながらも見付け出されずに済んだわいと安心して居たのは此方の誤りであつた。時間があつたので僕は本船まで巡廻員を見送つた其時、會計の大櫃鉞之助書記から「〇〇君一寸」と呼ばれる。昔から一寸来いにロクな事なし、何事ならんと附いて行けば「先程キリギリスを捕つた時新聞紙を卷いた火舎が二本茅株の中に在つた。巡廻事務も済んだ後なので見逃して置いたがあれはどうしたのか」と聞かれ、實は斯々と白状に及べば「其様な姑息な事をせぬよふ帰つて村上首頁に傳へよ」と言はれ、

冷汗をかいて引き下がろふとすると、傍から庶務の城  
漸書記が「何故其時出さなかつたか」と詰じれば「ナ  
アーニ、巡廻も済んだ後でもあり、君が又例の看守イ  
ヂメを遣ると村上が可愛想だから」「何！例の看守イ  
ヂメとは怪しからん」と城さんイキリ立ったが、ちょ  
うど其時船員から出帆の注意があつたので早々下船し  
てホットした。

火舎ほやは、灯火を安定させるために石油灯器上に載せ  
ていたガラス製の筒です。令和の現在、角島灯台の柵  
外には整備された公園が広がり、火舎を隠した茅株は  
もうありません。春先には灯台裏に水仙が咲き誇り(図  
20)、辺り一面にかぐわしい香りが漂っています。こ  
の灯台裏で相模太郎は、信じ難いイタズラを行って  
います。最初の「回  
顧片々六十年」  
に次のとおり見  
られます。

或春の日、角  
島燈臺へいか  
が  
わしい女を混じ



図-20 角島灯台と水仙  
(令和5年2月撮影)

へた七、八人連の来観人が来た。総動員でペンキ塗最  
中なので縦覧を断つた。すると燈臺裏側柵外の芝地で  
酒宴を始めた。此方は百尺の高塔上でペンキ塗をやっ  
て居る、藤岡助手など初めての高所作業で命綱につか  
まって震へて居るのに下では放歌乱舞三味線の音が耳  
についてウルサイ事夥しい。ソコで僕は子供時代のイ  
タヅラ気分が復活した。大刷毛にペンキをトツプリ含  
ませて力一杯振り飛ばした。良い按配に先方には悪い  
按配に風下で酒宴の席上へパラパラッとペンキの雨、  
ビツクリ総立になつたが見かけよりは人種が良かった  
か怒りもせずサツサと引上げて行つた。

愚生はこれまで角島灯台を訪ねて灯台の上から下を  
見下ろすたびに、相模太郎の回想記事を思い出し、ど  
の辺にペンキを振り飛ばしたのか、どの辺りに火舎ほやを  
隠したのかと、様変わりした周囲のあちらこちらに当  
時の情景を想像し、クリクリ坊主の大先輩達に思いを  
馳せてきました。

#### 角島灯台を訪ねて

愚生は角島灯台には四季を通じて訪ねています。角  
島灯台の入口前に立つと、先ず頭上に掲げられた記念



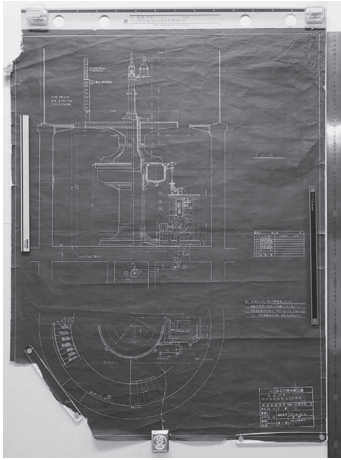


図-22 角島灯台回転機構図  
(海上保安試験研究センター保管)



図-23 角島灯台の灯器台  
(令和4年12月撮影)

製造の銘板が取り付けられています。工場が前身である海上保安試験研究センターには、製造当時の昭和28年作成の図面(図22)が大切に保



図-21 角島灯台の記念額

角島  
一 点燈器械及旋転器械共二工合  
最良シ 燈臺官舎ノ建物モ修繕ヲ  
要スル所ナシ 尤當所ハ現今伝習  
所トナリシ故 日本官舎ヲ今少シ  
便利ヨク為スタメ 模様替ヲ要ス  
ルナリ  
一 塔ノ階段ノ上部ヨリ最下マデ

らせん階段の手摺りを伝つて、登り終えた先には現在、前編で紹介した海上保安庁燈台部工場製の回転機構があります。水銀槽の台座には、確かに燈台部工場製造の銘板が取り付けられています。工場が前身である海上保安試験研究センターには、製造当時の昭和28年作成の図面(図22)が大切に保

額(図21)が目には飛び込んできません。この記念額については、工部省年次報告書にある明治丸燈台視察報告の明治11年9月24日付の角島灯台の報告に次のとおり見られます。

新し欄ヲ取付ケ又塔ノ入口へ記念額ヲ掲ゲタリ

明治丸の灯台視察報告によれば、角島灯台の記念額とらせん階段の手摺りは、灯台設置から2年後に取り付けられていたようです。また当時は、日本官舎と称した木造の日本人専用の官舎が、今もあるレンガ造の官舎に併設されてありました。角島灯台は、ジョセフ・ディックから外人燈明番教授方から灯台の運用保守を直接教わる伝習灯台であったこともこの記録から再確認できます。

管されています。

令和4年の師走、当時門司海上保安部の次長であった橋川秋彦様に案内いただき、回転機構と前編で紹介したレンズの刻印の調査をさせていただきました。その際、偶然目に留まったのが、灯器台の張り出し穴（図23の矢印）でした。

この張り出しは、図22の図面にも記されていた珍しいもので、当時の写真（図25）も海上保安試験研究センターに残っていました。それは、電球が点灯不能時に石油灯器へすぐに切り換える交換装置の石油灯器の取付け穴でした。灯器の変遷の足跡が、角島灯台のレンズの中で秘かに残されていたのです。

石油灯器から電球、そして今はメタルハライドランプの光が、角島灯台の一等レンズを通して、日本海の

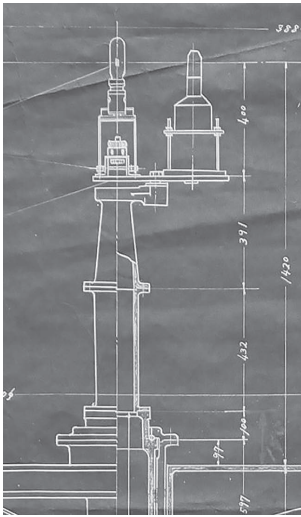


図-24 図22の灯器装置の拡大

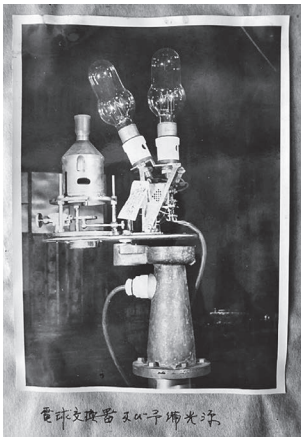


図-25 電球—石油灯器交換装置（試験センター保管写真）

大海原を照らし続けてきました。その光も間もなく新たな光に変わろうとしています。メタルハライドランプの製造は、昨年（令和5年）9月をもって終了し、今ある在庫がなくなり次第新たな光源に代わります。角島灯台は灯塔もレンズも国の重要文化財に指定される歴史的な古い灯台ですが、航路標識としての光源は、常に時代の最先端の光が採用されており、これからも信頼ある光を通して航行船舶の安全に大きく寄与していくものと思われれます。

（明治の灯台の話 73 角島灯台（後編））

本稿作成に当たり、ご援助いただきました橋川秋彦様、下関市教育委員会文化財保護課の高月鈴世様、犬吠埼ブランドン协会会长の仲田博史様、角島ブランドン

会幹事の藤岡達雄様に対しまして、この場を借りて深謝いたします。



二 管 区

## 灯台絵画コンテスト「特別賞」の

### 表彰式開催

～二本部交通部長特別賞を新設！

福島県の中学生が受賞～

第二管区海上保安本部交通部では、令和6年2月8日、福島県いわき市所在のいわき市立平第一中学校において、福島海上保安部と合同で、第二管区海上保安本部交通部長特別賞の表彰式を開催しました。

燈光会主催の「灯台絵画コンテスト2023」に応募された作品は、例年どれも丁寧に描かれており、灯台や色鮮やかな風景、活き活きとした表情の人物が画角に収まり、見ている人を笑



作品名：「塩屋崎灯台」

顔してくれるものであったことから、以前から燈光会に絵画の貸出を依頼し、展示に使わせてもらっていました。

本年度は、展示だけではなく、優秀な作品を表彰することにより、より一層、若い世代に灯台に対する関心を深めていただきたいという思いから、初めて特別賞を設けました。

選考の結果、福島県いわき市立平第二中学校2年の三ヶ田幸介さんが受賞しました。

表彰式では、三ヶ田さんは、終始緊張した面持ちでしたが、賞状を受け取り、拍手が起ると照れくさそうに笑顔を見せ、「小さい頃、家族と訪れた思い出の灯台です。うれしいです。」とコメントし、表彰式を通して、より



集合写真

一層灯台への関心を深めている様子が伺えました。

また、校長先生からは、「三ヶ田さんは美術部に所属しており、美術部で頑張っている他の生徒の励みになります。」との感謝の言葉があり、海上保安業務に対しても関心を深く示されています。

第二管区海上保安本部では、今後も様々なイベントを通じて、灯台をはじめ、海上保安業務により一層関心を持つて貰えるよう努めて参ります。

(第二管区海上保安本部交通部)

### 三 管 区

#### 海の交通安全の祈りを込めて 〜野島埼灯台年末大掃除〜

千葉海上保安部では、令和5年11月3日に野島埼灯台「灯台の日」イベントを南房総市及び観光協会と合同で実施し、特製の缶バッジを配布し来場者



清掃風景



特製缶バッジ

に喜んでいただきました。

このイベントで地域との連携が強化できたことから、野島埼灯台の初点灯日（明治2年12月18日）から154年目の節目となる令和5年12月18日に南房総市、観光協会に加え普段からお世話になっている海上保安協力員及び燈光会の皆さまとともに海の交通安全の祈りを込めて野島埼灯台のレンズ大掃除を実施することといたしました。

参加いただいた方々は「レンズはこんなに大きいのに電球はすごく小さいんですね」と驚き、数人毎に交代でレンズの中に入り、1年の汚れを丁寧に拭き取りました。

このような地域連携は初めてのことで、南房総市からは「野島埼灯台は市のシンボルの一つで、千葉海上保安部と協力し今後もイベントを実施していけたら」とのコメントがあり、今後も灯台を活用したイベント開催が期待できることとなりました。

この様子は今年度の千葉海上保安部



の記事としては最多となる7紙に掲載され、大きな反響がありました。これを機会に今後も関係機関と連携し、灯台を活用した地域貢献を実施していきたいと考えております。

最後に、燈光会の皆さまには平素より多大なご協力をいただいております、お礼申し上げます。(千葉海上保安部)

## 五 管 区

### 大阪湾海上交通センターの監視及び情報提供体制を強化しました！

平成30年9月の台風21号の影響により発生した関西国際空港連絡橋への船舶衝突事故で甚大な影響があったことを受け、大阪湾北部海域における船舶の動静監視及び船舶への情報提供体制を強化しました。

【令和5年3月】

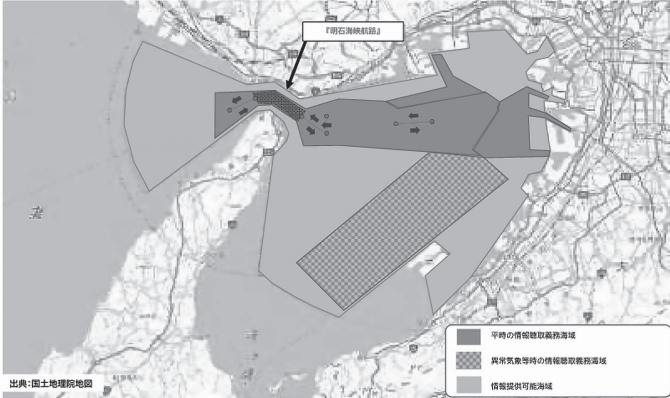
第五管区海上保安本部と大阪湾海上交通センターのさらなる連携を図

る観点から同センターの管制機能を兵庫県淡路市から神戸市へ移転

【令和5年5月】

大阪湾北部海域に、平時における

『航路』等の監視エリア



情報聴取義務海域の拡大及び異常気象等時における情報聴取義務海域を設定

【令和5年10月】

大阪湾海上交通センターに明石海峡航路の航路管制と阪神港の港内交通管制を統合

そして、令和6年2月1日に阪神港神戸区、大阪区及び堺泉北区に平時における情報聴取義務海域を設定し、大阪湾海上交通センターの強化された業務体制が整ったことで、大阪湾北部海域の船舶の動静を一体的に把握し、効果的、効率的に監視や情報提供を行うことが可能となり、大阪湾北部海域における船舶交通の一層の安全が確保されることとなりました。

引き続き大阪湾海上交通センターでは、ふくそう海域における船舶交通の安全確保に努めて参ります

(大阪湾海上交通センター)



## 灯台絵画コンテスト2023

### 表彰伝達式

第十管区海上保安本部交通部は、灯台絵画コンテスト（燈光会主催）の中学生の部で銅賞を受賞した生徒2名に対して12月14日には薩摩川内市立川内中央中学校、12月21日には霧島市立舞鶴中学校をそれぞれ訪問し、校長先生立ち会いの下、西交通部長から表彰状を伝達しました。最初、生徒は緊張した様子でしたが、話をしているうちに緊張もとけて笑顔もみられるようになりました。

薩摩川内市立川内中央中学校2年生の木屋尾さんは、今回初めての受賞で、佐多岬灯台（鹿児島県南大隅町）を描いてくれました。

木屋尾さんは、部活も美術部に所属し、今回の佐多岬灯台の絵画は写真を見て描いてくれたそうです。来年は、



西交通部長 木屋尾さん 校長先生

【薩摩川内市立川内中央中学校】



西交通部長 野崎さん 校長先生

【霧島市立舞鶴中学校】

国土交通大臣賞を目指したいと意気込んでいました。

霧島市立舞鶴中学校1年生の野崎さんは、絵が好きで毎年のように応募してもらっています。過去小学生時代に3回（2022年 銅賞、2021年 銀賞、2018年 銅賞）も受賞しており、通算4回目の受賞となりました。

今回は長崎鼻灯台（鹿児島県長島町）を描いてくれました。「次は、国土交通大臣賞を目指します！」と力強く宣言してもらいました。

今般入賞した2名が来年も入賞することを期待したいと思います。

なお、校長先生と会えるせっかくのチャンスということで、事前にパンフレットを用意して、西交通部長から校長先生に対して、航路標識などの当庁業務PRと学生募集活動もしっかりと行いました。帰り際にすれ違う他の生徒に対してもパンフレットを配布しPRする場面もあり、充実した伝達式と



西交通部長から校長先生へ当庁業務をPR

【薩摩川内市立川内中央中学校】

【霧島市立舞鶴中学校】

なりました。

(第十管区海上保安本部交通部)

### 灯台絵画コンテスト2023

#### 表彰伝達式

鹿児島海上保安部は、昨年の12月13日に鹿児島市立伊敷小学校の校長室において、同校の校長先生立会いの下、燈光会主催(当庁後援)の灯台絵画コンテストで見事、銅賞に選ばれた同校の児童2名に対し、濱平部長が表彰状を伝達しました。

二人が描いてくれたのは、初点灯から152年の歴史があり、日本の本土最南端に位置する佐多岬灯台です。なぜ、二人とも行ったこともない佐多岬灯台(佐多岬先端の更に先の急峻な島にある灯台)を題材に選んだのか、どうして、同じ小学校から二人も受賞者が出たのかという疑問がありました。が、それは、美術指導をされた川口先生と話をすることで納得の事実が判明し

ました。

その川口先生ですが、令和2年に種子島の中種子町立油久小学校で勤務されていた時、美術指導をした児童が種子島灯台を描いて「海上保安庁長官賞」を受賞。そして、この受賞を記念して行った種子島灯台特別公開時の様子をモチーフに描いた同じ児童の絵画が、翌年、なんと国土交通大臣賞を受賞し、町役場には、2年連続で祝福の横断幕が掲げられたそうです。

当時、第十管区海上保安本部で勤務されていた部長も「あっ、あのときの！」と驚きを隠せない様子でした。

大臣賞受賞の絵画は、特別公開時に立ち会った女性海上保安官やしょう戒中に展示飛行を行ってくれた鹿児島航空基地の航空機も描かれており、川口先生は、「いろいろ良くしていただいて、とても印象深い思い出です。」と話されていました。

残念ながら、鹿児島市近郊には絵画の題材となるような大型の沿岸灯台は



中野 心百合さん  
(5年生)



中友 稜くん  
(2年生)



濱平部長 校長先生 橋川次長

ありません。そこで、今回、川口先生が考えられたのが、鹿児島県を代表する佐多岬灯台を題材に選んで、写真などを見せて児童に描かせるということです。子供たちの実力もさることながら、熱心な先生が居る学校に「賞」が届くことを実感した次第です。

伝達式では、終始緊張気味の子供たちでしたが、「子供たちの笑顔を撮る」というミッションを課せられた交通課のY官が、得意の変顔(;)で子供たちの笑顔を引き出し、見事、ミッションをクリアしてくれました。(上右の写真)

また、伝達後の懇談では、子供たちに当庁のパンフレットやグッズなどに加え、当部の業務や佐多岬灯台の歴史などを紹介した資料を手渡し、部長自ら海図を使った灯台の説明も実施していただきました。(上左の写真)

今回の伝達式に際しては、小学2年生でもわかりやすいようにと、橋川次長が頭を悩ませながら子供向けの資料を作成し、大量の海保グッズなども準備しました。

また、子供たちの笑顔を引き出すため、カメラマン役を務めたY官は「変顔」の練習をするなど、万全な準備をして臨み、来年へ繋がる地域連携が図れたものと思われまます。鹿児島海上保安部は、今後も地域に密着した実りある活動を展開していきます。

(鹿児島海上保安部)

第19弾

## のほねる灯台(16基) スタンプラリー達成者



全国北から南までの16灯台巡っていただき、誠にありがとうございました。  
達成者の皆様、おめでとうございます！

第145号

真利 研一郎 様(36歳)兵庫県姫路市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日  
令和4年8月11日 塩屋埼灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日  
令和5年2月26日 残波岬灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ  
スタンプラリー1周目が完了したので、2周目を始めました。(前回72号達成)
- ☆ 16か所巡った感想  
次は、3周目スタートします



ご本人様：一番左

第146号

今井 康悦 様(45歳)神奈川県川崎市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和4年3月4日 御前埼灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和5年3月5日 初島灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ  
星空の撮影のため訪れた御前埼灯台で内容を教えてもらい全国を巡ろうと思いました。
- ☆ 16か所巡った感想  
初めて行く土地ばかりでしたが、各灯台の受付の方々、地元の方々の優しさに感動しました。ありがとうございました。

第147号

ぺんちゃん 様 東京都在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和2年10月31日 尻屋埼灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和5年3月17日 潮岬灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ 尻屋埼灯台で見つけて
- ☆ 16か所巡った感想  
1周目は8年かけましたが、今回は2年半で、楽しかったです。